

目的 前回に引き続き、今回は、明治維新後の食生活啓蒙活動の中で、その近代の食形成において啓蒙的役割を果たしたと思われる女性の一人、下田歌子を取り上げ、その資料をまとめることを目的として、調査を行った。

方法 今日のような情報過多の時代とはおおよそ異なり、当時、食物・食生活に関する多方面の知識の普及には、雑誌・書籍等に掲載される識者の論説・意見・所感等が、啓蒙的役割を果たしたと考えられる。その中には女性執筆のものも少なくなく、家庭生活の近代化に向か、て女性の特性を生かした活躍がみられた。そこで、それらの記事により、下田歌子の活動内容について分析し、いかに日常の食生活の改善に努めたかを調査した。

結果 下田歌子は、食物を専門分野とする研究者でなく、にももかかわらず、家政学の講義を行うとともに、家政学関係書、婦人雑誌を通して、社会における女性の重要な役割について説き、食に関する記事としては、食品衛生、経済、日本料理、西洋料理、日本礼法、西洋礼法と広範囲に及んでおり、食生活の近代化をはかるよう啓蒙に努めた。西洋文化が盛んに吸収されてい、た当時、欧米での実際の経験を生かして西洋料理等の知識を提供したということとは、西洋料理の普及に拍車をかけることにな、たであろうし、その役割は大きい。また、献立法については、多くの献立例を示し、それらを比較検討し、読者である婦人自ら、取捨選択できるように記述されている。さらに料理に関しては、その目的、料理法、使用器具、食器等について、実用的、かつ詳細に説明されており、日本料理、西洋料理、支那料理それぞれの特色についても挙げられている。